

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和元年 7月～9月実績

令和元年 10月～12月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 164企業（回答率99.4%）
6. 調査対象期間 令和元年7～9月期実績及び令和元年10～12月期見通し
7. 調査時点 令和元年9月1日（日）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38 100.0%
建設業	24	14.5%	24 100.0%
小売業	51	30.9%	51 100.0%
サービス業	52	31.5%	51 98.1%
合計	165	100.0%	164 99.4%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について<増加・上昇・好転>の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

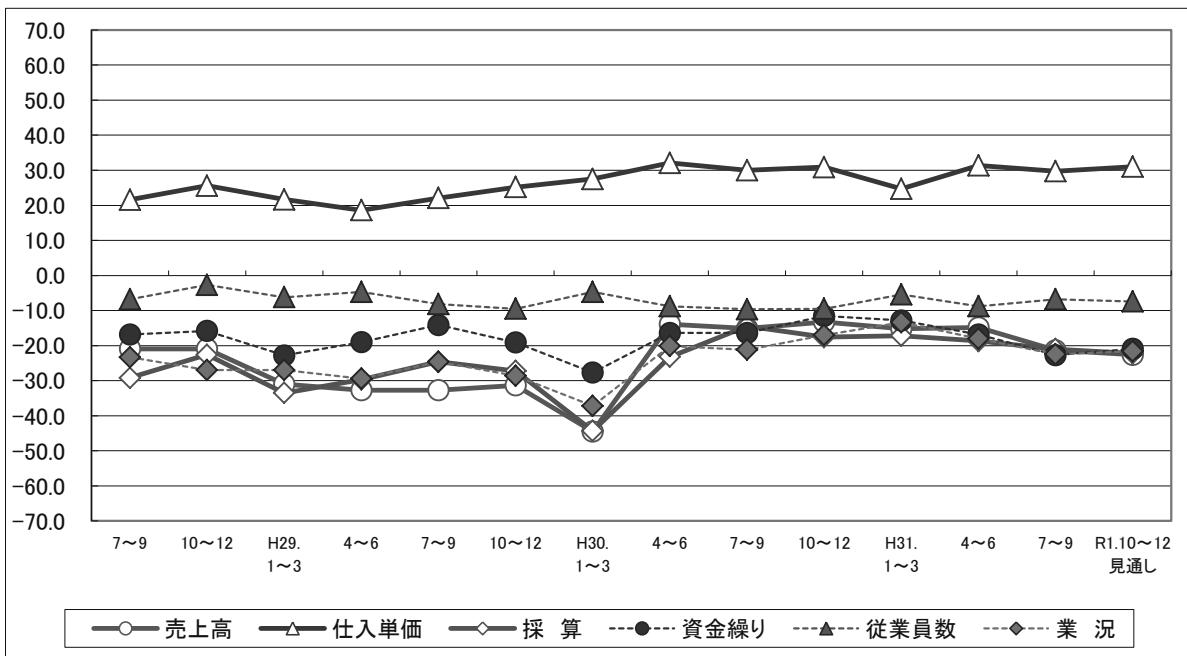
$$DI \text{ (数式)} = (上昇企業数 - 低下企業数) \div \text{回答企業数} \times 100$$

10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 教授 南保 勝 氏

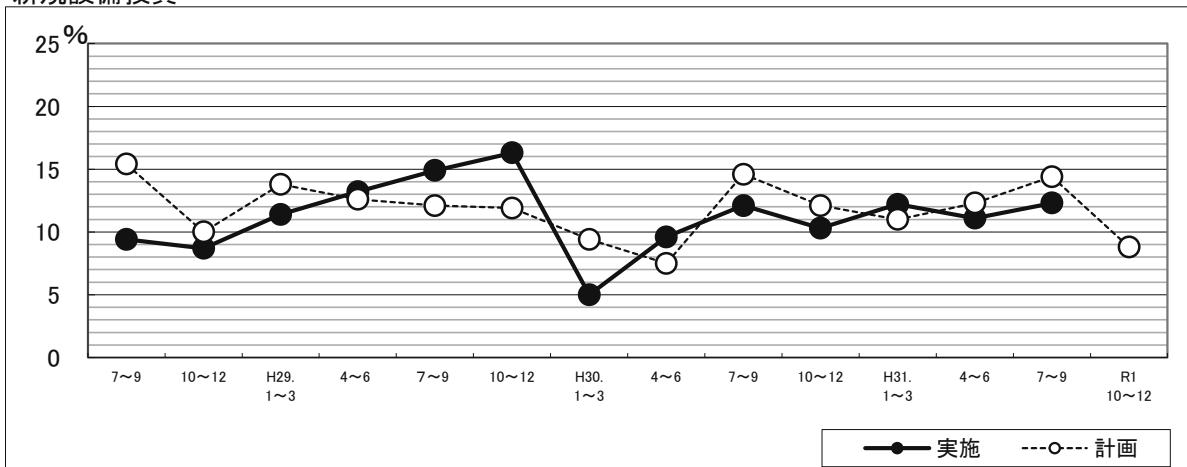
全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

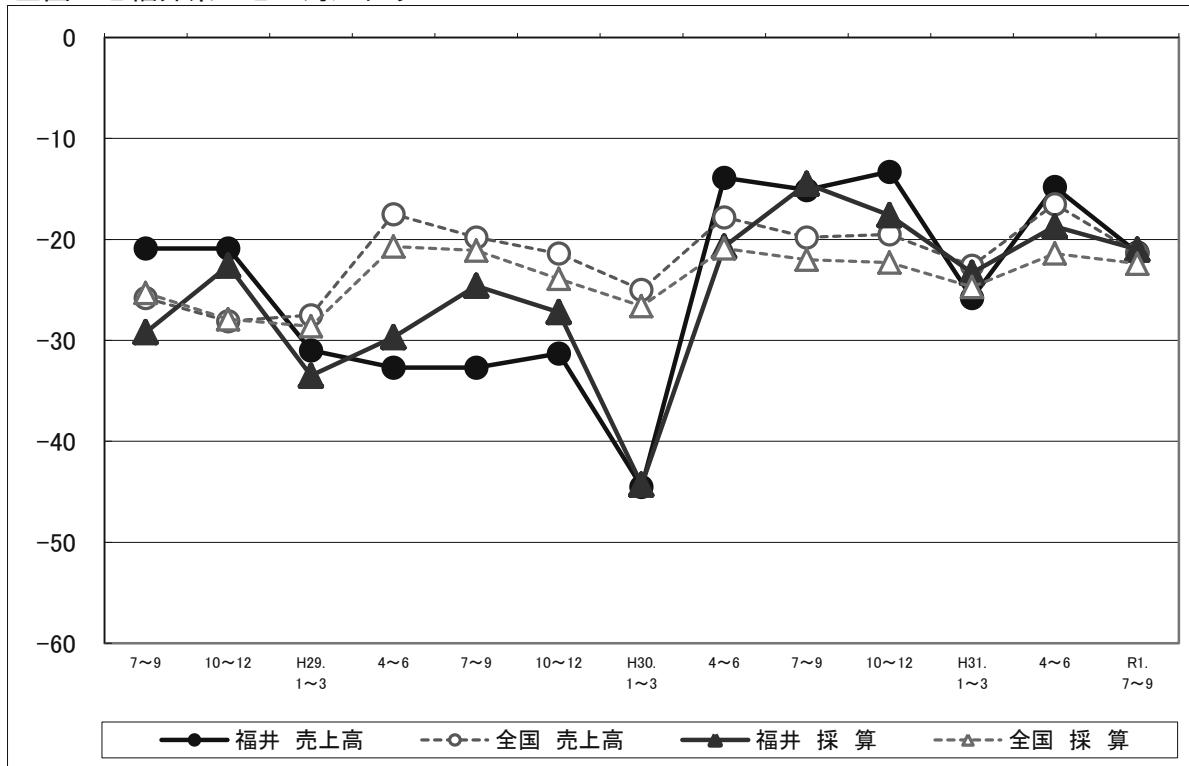
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
7~9	▲ 20.9	21.6	▲ 29.2	▲ 16.8	▲ 6.8	▲ 23.3
10~12	▲ 20.9	25.6	▲ 22.6	▲ 15.8	▲ 2.7	▲ 27.0
H29.1~3	▲ 31.0	21.7	▲ 33.5	▲ 22.8	▲ 6.2	▲ 27.0
4~6	▲ 32.7	18.6	▲ 29.7	▲ 19.0	▲ 4.7	▲ 29.4
7~9	▲ 32.7	22.1	▲ 24.6	▲ 14.1	▲ 8.2	▲ 24.6
10~12	▲ 31.3	25.2	▲ 27.2	▲ 19.1	▲ 9.5	▲ 28.6
H30.1~3	▲ 44.5	27.5	▲ 44.3	▲ 27.7	▲ 4.7	▲ 37.2
4~6	▲ 13.9	32.1	▲ 23.2	▲ 16.4	▲ 8.8	▲ 20.1
7~9	▲ 15.1	30.0	▲ 14.5	▲ 16.4	▲ 9.6	▲ 21.2
10~12	▲ 13.3	30.9	▲ 17.6	▲ 11.5	▲ 9.5	▲ 17.0
H31.1~3	▲ 15.2	24.7	▲ 17.2	▲ 12.8	▲ 5.4	▲ 13.4
4~6	▲ 14.8	31.4	▲ 18.7	▲ 16.8	▲ 8.8	▲ 18.0
7~9	▲ 21.3	29.7	▲ 21.0	▲ 22.7	▲ 6.8	▲ 22.5
R1.10~12見通し	▲ 22.6	31.0	▲ 22.2	▲ 20.9	▲ 7.4	▲ 21.6



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R元年7~9月期の福井県経済を概観すると、需要面では個人消費が幅広い品目で堅調を持続。天候不順による外出控えや季節品需要の下押し圧力の剥落に加え、休日日数の増加が消費押し上げに寄与し、概ね堅調を維持した。また住宅投資、設備投資、公共投資なども概ね増加している。一方、生産活動は繊維などの地場産業に足踏み感が出始めているほか、電子部品・デバイスでもスマートフォン向けで勢いを欠くなど拡大の動きに一服感がみられる。また、化学では医薬品が弱含んでいることから、全体では拡大の動きが緩やかになっている。

こうした中、今期（R元年7~9月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち2項目で改善、4項目で悪化となった。ちなみに、改善した項目は、仕入単価（逆指標）（前期▲14.8→今期▲21.3）、従業員数（前期▲8.8→今期▲6.8）で、悪化した項目は、売上高（前期▲14.8→今期▲21.3）、採算（前期▲18.7→今期▲21.0）、資金繰り（前期▲16.8→今期▲22.7）、業況（前期▲18.0→今期▲22.5）であった。今回の調査では、全体として業況悪化から売上が低下し採算が悪化、資金繰りが厳しさを増している状況が読み取れる。また、先行き（R元年10~12月期）についても、業況、従業員数を除く4項目で悪化予測となっている。

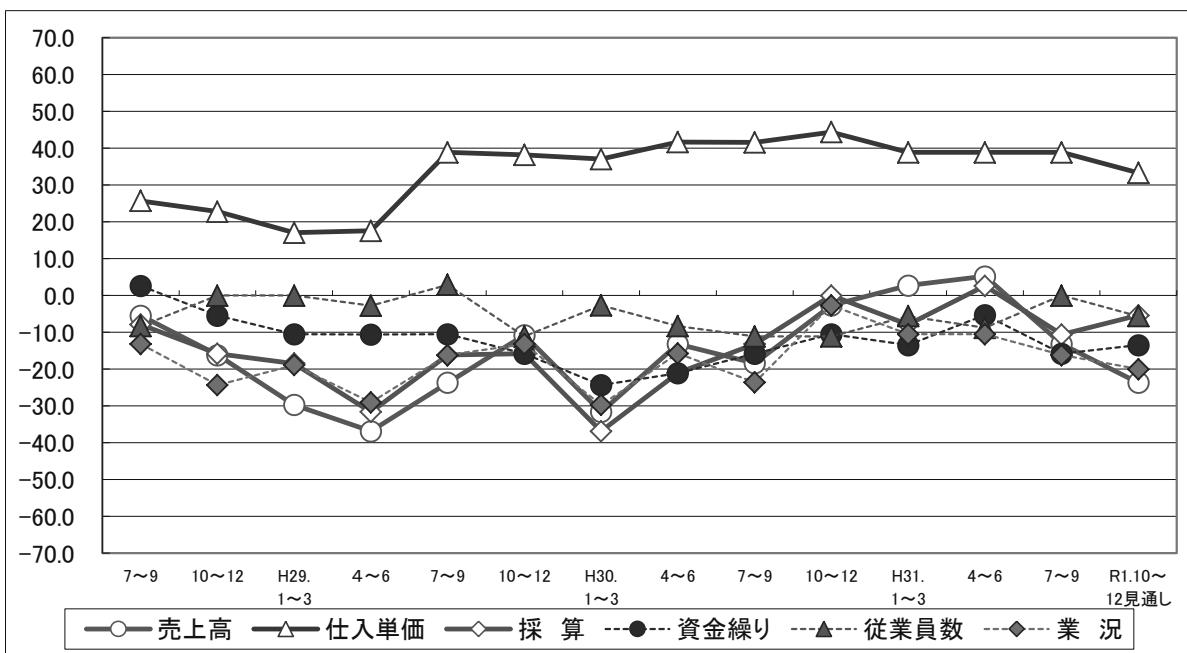
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、全国、福井県とともにそれらDI値は悪化傾向となっており、特に福井県の場合は売上高の落ち込み（前期▲14.8→今期▲21.3）が大きく現れている。

そのほか、今期の新規設備投資については、何らかの設備投資を計画している企業ウエイト14.4%に対して、実施した企業ウエイトが12.3%と実施が計画を下回っている。また、先行き（R元年10~12月期）については、投資を計画する企業ウエイトが8.8%に止まり、投資マインドの冷え込みが予想される。

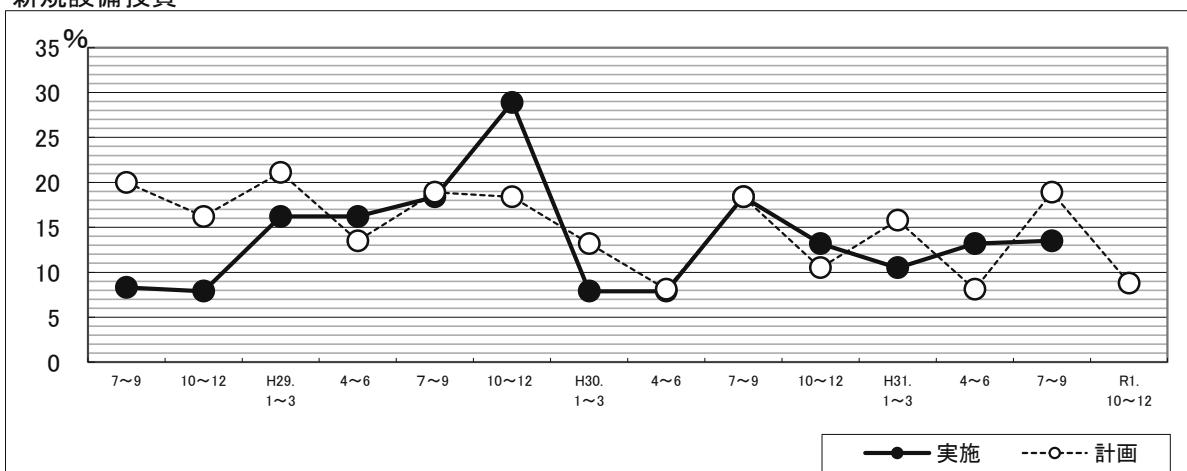
製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

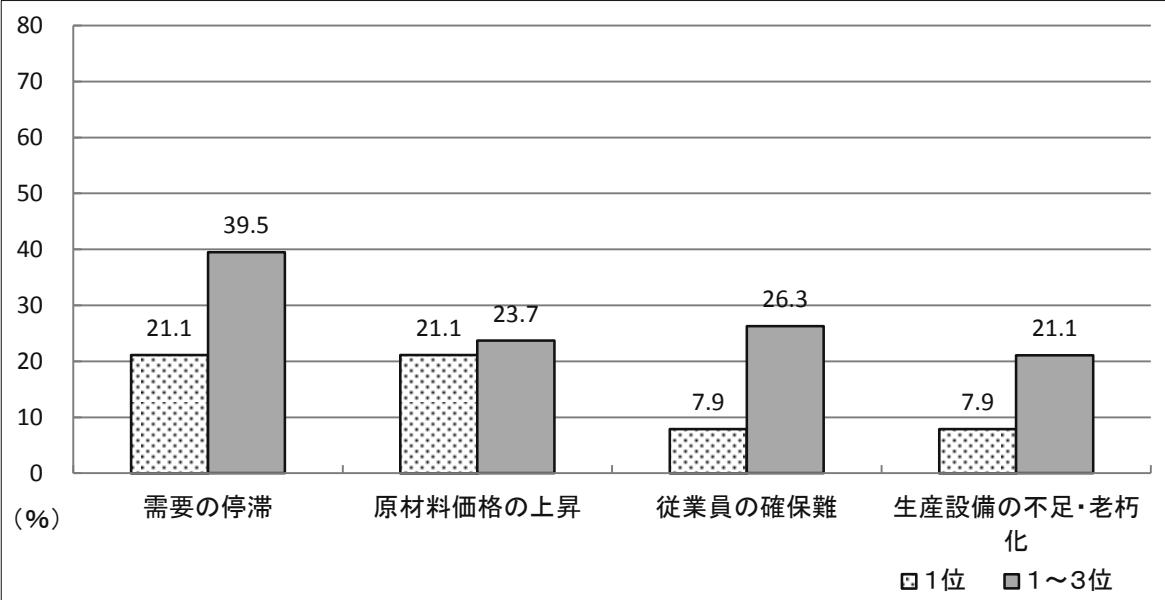
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
7~9	▲ 5.5	25.7	▲ 7.9	2.6	▲ 8.3	▲ 13.2
10~12	▲ 16.2	22.8	▲ 15.8	▲ 5.5	0.0	▲ 24.3
H29.1~3	▲ 29.7	17.1	▲ 18.5	▲ 10.5	0.0	▲ 18.9
4~6	▲ 36.9	17.6	▲ 31.6	▲ 10.6	▲ 2.8	▲ 29.0
7~9	▲ 23.7	38.9	▲ 16.2	▲ 10.5	2.9	▲ 16.2
10~12	▲ 10.8	38.2	▲ 15.8	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 13.2
H30.1~3	▲ 31.6	37.1	▲ 36.9	▲ 24.3	▲ 2.7	▲ 29.7
4~6	▲ 13.2	41.7	▲ 21.0	▲ 21.1	▲ 8.3	▲ 15.7
7~9	▲ 18.4	41.6	▲ 13.2	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 23.6
10~12	▲ 2.7	44.4	0.0	▲ 10.5	▲ 11.1	▲ 2.7
H31.1~3	2.7	38.9	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 10.5
4~6	5.2	38.9	2.6	▲ 5.3	▲ 8.8	▲ 10.5
7~9	▲ 13.2	38.9	▲ 10.6	▲ 15.8	0.0	▲ 16.2
R1.10~12見通し	▲ 23.7	33.3	▲ 5.4	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 20.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・賃上げや有給による稼働日数の減少で業況厳しい。値上げをして対応せざるを得ない。
- ・消費増税でますます需要の停滞が考えられるので、来期の見通しがたたない。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、地場産業では、眼鏡枠がOEM受注により横這いの状況となっているものの、国内向けでは中国を中心とする低価格帯シフトが続いていることから全体では弱含んでいるほか、繊維もこれまで堅調を持続した非衣料分野で足踏み感が出始めている。電子部品・デバイスも、スマートフォン向けで勢いを欠くほか、自動車向けも弱さが見られることから、全体では足踏みの状況にある。科学・プラスチック工業は、合成樹脂等の化学製品や建築資材などが回復しているものの、医薬品が弱含んでいることから、全体では持ち直しのテンポが緩やかになっている。

こうした中、今期（R元年7—9月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち1項目のみ改善、1項目で横這い、残る4項目で悪化となった。ちなみに、改善した項目は、従業員数で前期▲8.8→今期0.0となった。横這い項目は仕入単価（逆指標）（前期38.9→今期38.9）、悪化した項目は売上高（前期5.2→今期▲13.2）、採算（前期2.6→今期▲10.6）、資金繰り（前期▲5.3→今期▲15.8）、業況（前期▲10.5→今期▲16.2）であった。今回の調査結果からは、県内製造業の景況感が売上高の低下などから悪化していることを裏付けるものとなった。また、先行き（R元年10—12月期）についても、6項目中3項目で悪化予測となっている。

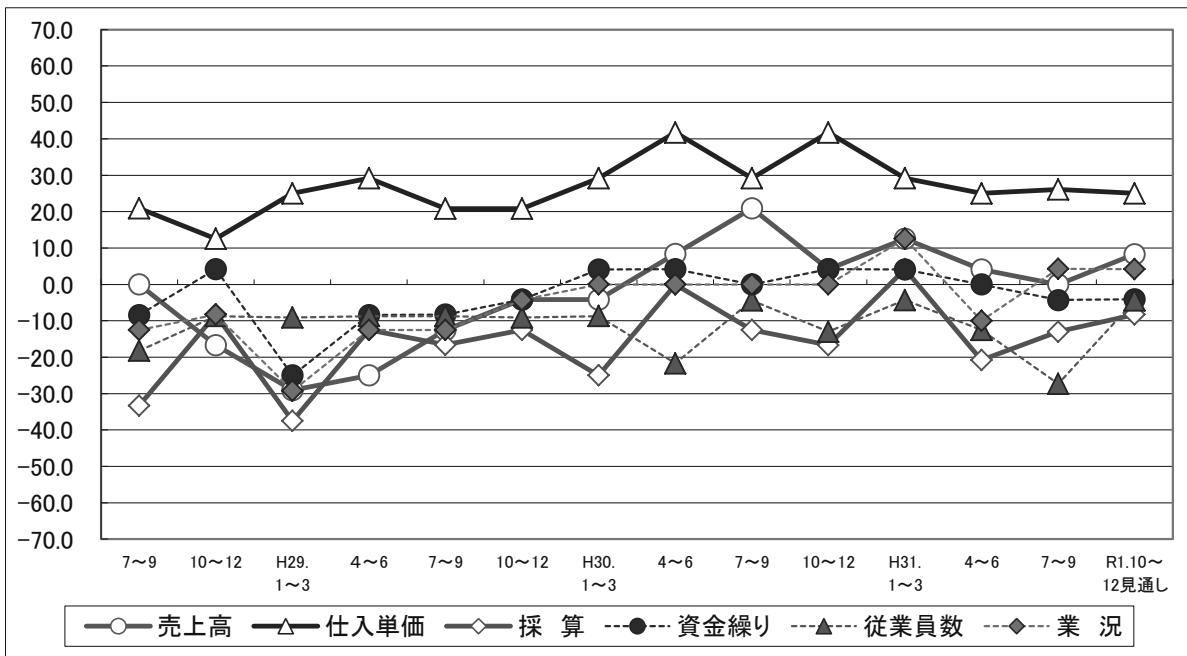
一方、新規設備投資の状況については、計画の18.9%に対し実施が13.5%となり、精彩を欠く展開となった。また、先行き（R元年10—12月期）についても、何らかの投資を予定する企業が8.8%となり、投資マインドの低下が予想される。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「需要の停滞」で最も多く21.1%（1位～3位までに挙げた企業39.5%）を占めた。また個別の見解としては、「消費増税でますます需要の停滞が考えられ、来期の見通しがたたない」、「賃上げや有給による稼働日数の減少で業況が厳しく値上げをして対応せざるを得ない」など悲観的な声が目立っている。

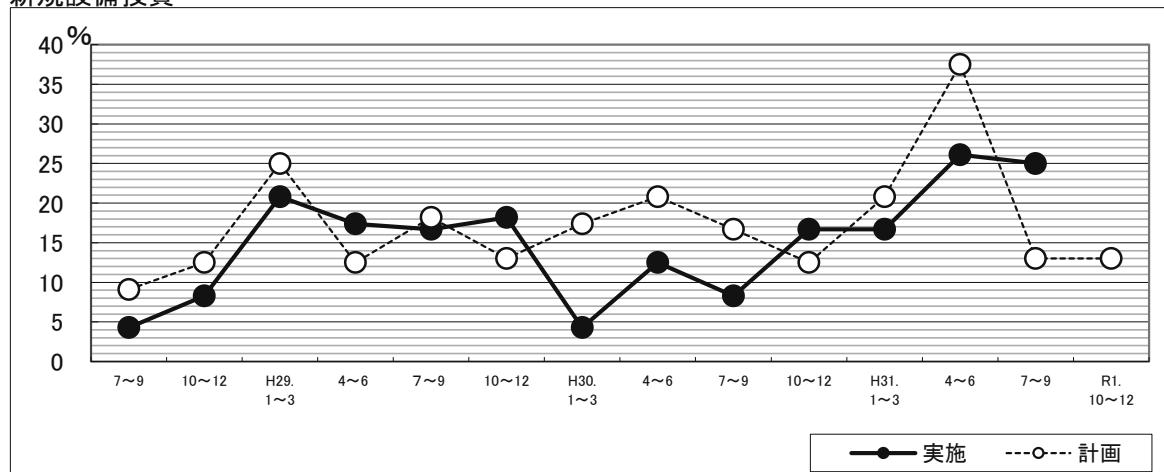
建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

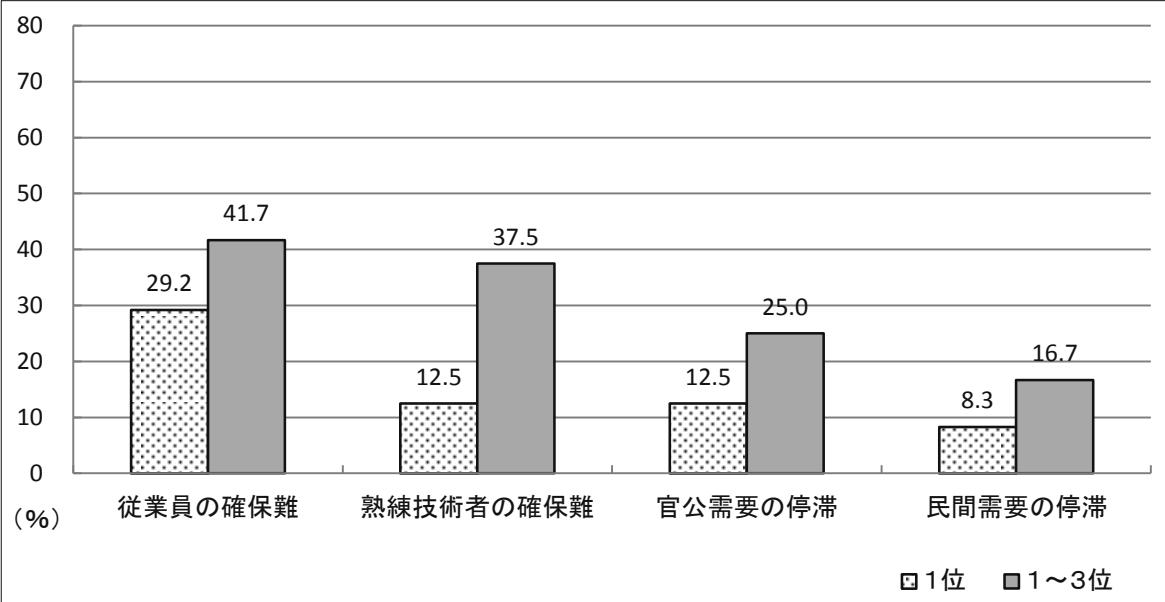
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
7~9	0.0	20.9	▲ 33.3	▲ 8.4	▲ 18.2	▲ 12.5
10~12	▲ 16.7	12.5	▲ 8.3	4.2	▲ 8.7	▲ 8.3
H29.1~3	▲ 29.1	25.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 9.1	▲ 29.2
4~6	▲ 25.0	29.2	▲ 12.5	▲ 8.4	▲ 8.7	▲ 12.5
7~9	▲ 12.5	20.8	▲ 16.6	▲ 8.3	▲ 8.7	▲ 12.5
10~12	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 9.1	▲ 4.3
H30.1~3	▲ 4.2	29.2	▲ 25.0	4.1	▲ 8.7	0.0
4~6	8.4	41.7	0.0	4.2	▲ 21.7	0.0
7~9	20.9	29.2	▲ 12.5	0.0	▲ 4.4	0.0
10~12	4.2	41.7	▲ 16.7	4.2	▲ 13.0	0.0
H31.1~3	12.5	29.2	4.2	4.1	▲ 4.3	12.5
4~6	4.1	25.0	▲ 20.8	0.0	▲ 12.5	▲ 10.0
7~9	0.0	26.1	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 27.3	4.3
R1.10~12見通し	8.3	25.0	▲ 8.3	▲ 4.1	▲ 4.4	4.2



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・入札物件は増えているが、不採算工事が多く応札しない物件が増えている。随意契約の減少により自社施工工事が減少している。
- ・官公庁からの受注は増えているが、消費税増税や材料価格の値上がり等不安材料も多い。

建設業の景況

福井県内における平成31年度（H31年4～R元年9月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で1,239億72百万円の前年同月比24.0%増、発注件数は同2,080件の同1.5%増となっている。これを主な発注者別でみると、市町村関連工事が268億01百万円の前年同期比12.3%増、独立行政法人等関連工事で546億円89百万円の同32.9%増となっている。一方、住宅投資については、R元年4～8月期までの5ヶ月累計で、前年同期比11.2%増の2,164戸であった。ちなみに、利用関係別では主力の持家が前年同期比9.0%増の1,226戸、賃家が同6.9%減の593戸となっている。

こうした中で今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、2項目で改善、4項目で悪化となった。ちなみに改善項目をみると、採算が前期▲20.8→今期▲13.0、業況が前期▲10.0→今期▲4.0、悪化項目は売上高が前期4.1→今期0.0、仕入単価が前期25.0→今期26.1、資金繰りが前期0.0→今期▲4.3、従業員数が前期▲12.5→今期▲27.3となっている。この結果を総括すれば、これまで堅調に推移した建設業にやや陰りが出始めたと言える。ただ、先行き（R元年10～12月期）については、業況以外で改善予測となっており、景況の回復が期待される。

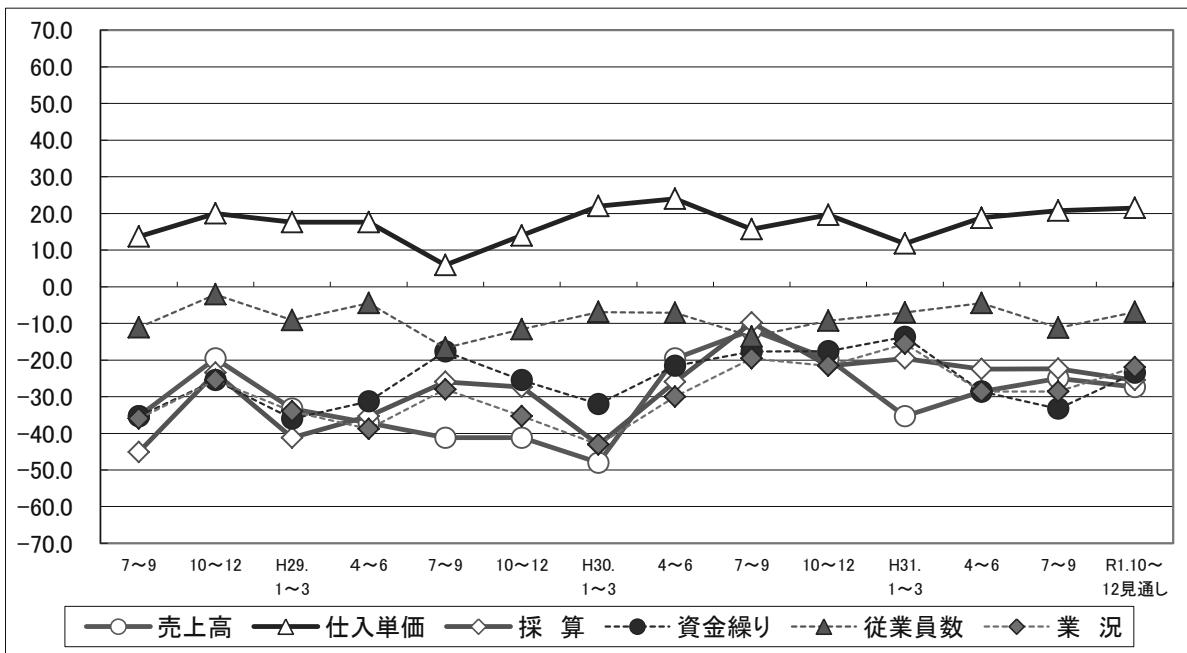
一方、今期の新規設備投資については、計画した企業13.0%に対し実施した企業が25.0%と実施が計画を大きく上回った。先行き（R元年10～12月期）については、何らかの投資計画を持つ企業が今期同様13.0%にとどまっている。

最後に、経営上の問題点については、「従業員の確保難」が1位に挙げた企業ウエイト29.2%、1位～3位までに挙げた企業41.7%を占め、最多となった。個別の見解としては、「入札物件は増えているが、不採算工事が多く応札しない物件が増えている」、「官公庁からの受注は増えているが、消費税増税や材料価格の値上がり等不安材料も多い」といった悲観的な声が聞かれた。

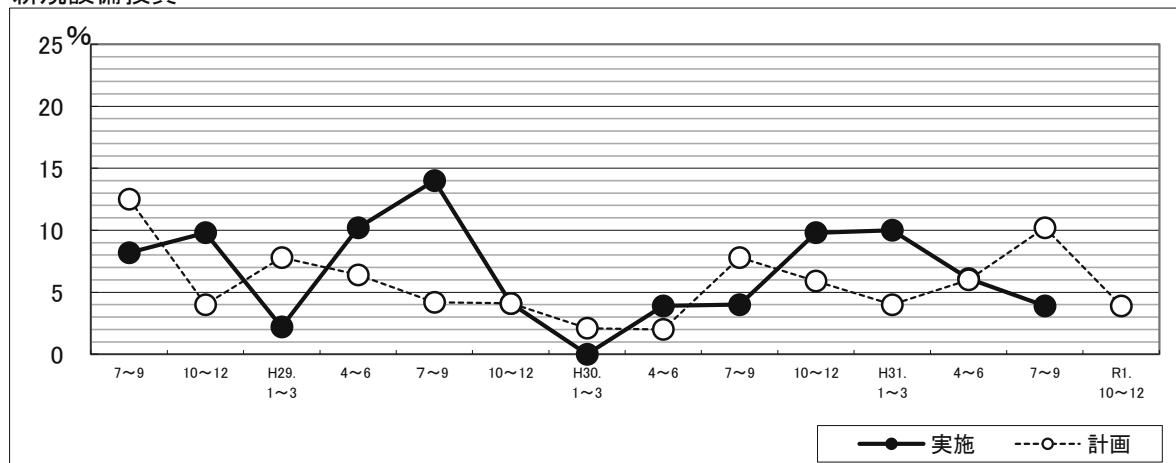
小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

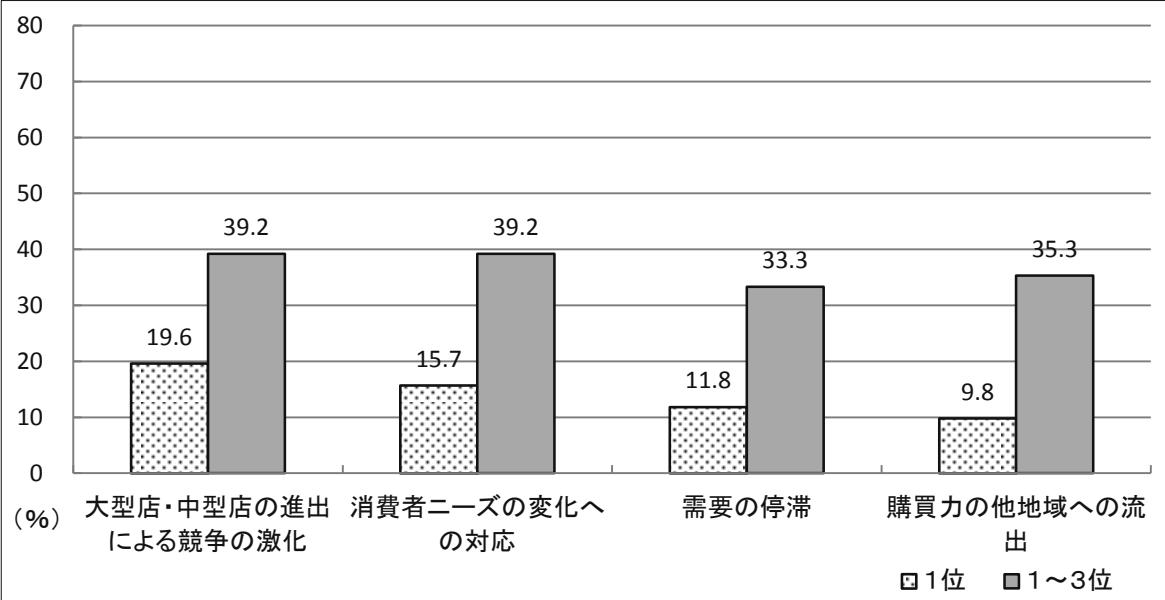
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
7~9	▲ 35.3	13.7	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 11.1	▲ 36.0
10~12	▲ 19.6	20.0	▲ 23.5	▲ 25.5	▲ 2.1	▲ 25.5
H29.1~3	▲ 33.3	17.6	▲ 41.2	▲ 36.0	▲ 9.1	▲ 34.0
4~6	▲ 37.2	17.6	▲ 35.3	▲ 31.3	▲ 4.5	▲ 38.8
7~9	▲ 41.2	5.9	▲ 26.0	▲ 17.7	▲ 16.7	▲ 28.0
10~12	▲ 41.2	14.0	▲ 27.4	▲ 25.5	▲ 11.6	▲ 35.3
H30.1~3	▲ 48.0	22.0	▲ 43.1	▲ 32.0	▲ 6.9	▲ 43.1
4~6	▲ 19.6	24.0	▲ 26.0	▲ 21.6	▲ 7.1	▲ 30.0
7~9	▲ 11.8	15.7	▲ 9.8	▲ 17.7	▲ 13.6	▲ 19.6
10~12	▲ 19.7	19.6	▲ 21.6	▲ 17.6	▲ 9.3	▲ 21.6
H31.1~3	▲ 35.3	11.8	▲ 19.6	▲ 13.7	▲ 7.0	▲ 15.6
4~6	▲ 28.6	18.8	▲ 22.5	▲ 28.6	▲ 4.5	▲ 28.6
7~9	▲ 25.0	20.8	▲ 22.4	▲ 33.3	▲ 11.2	▲ 28.6
R1.10~12見通し	▲ 27.4	21.5	▲ 25.5	▲ 23.5	▲ 6.9	▲ 22.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- 人手不足しており、人件費が上がり採算悪化している。
- 仕入単価が上昇しているので、販売価格を上げるしかないが、その影響で客数が減少している。

小売業の景況

最近の小売商況を外観すると、業界では人材確保がますます困難な状況となり、販売強化ができないといった声が聞こえるほか、堅調な食品についても食品スーパー並みの品ぞろえを有した大型ドラッグストアが相次いで県内各地に出店し、熾烈な競争環境となっている。参考までに、近畿経済産業局が公表するR元年8月の大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）をみると、前年同月比0.3%減の65億13百万円となっている。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中、仕入単価、資金繰り、従業員数の3項目で悪化傾向を示した。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲28.6→本期▲25.0、仕入単価（逆指標）が前期18.8→本期20.8、採算が前期▲22.5→本期▲22.4、資金繰りが前期▲28.6→本期▲33.3、従業員数が前期▲4.5→本期▲11.2、業況が前期▲28.6→本期▲28.6となっている。また、先行き（R元年10～12月期）については、売上高、仕入れ単価、採算で悪化予測となっている。

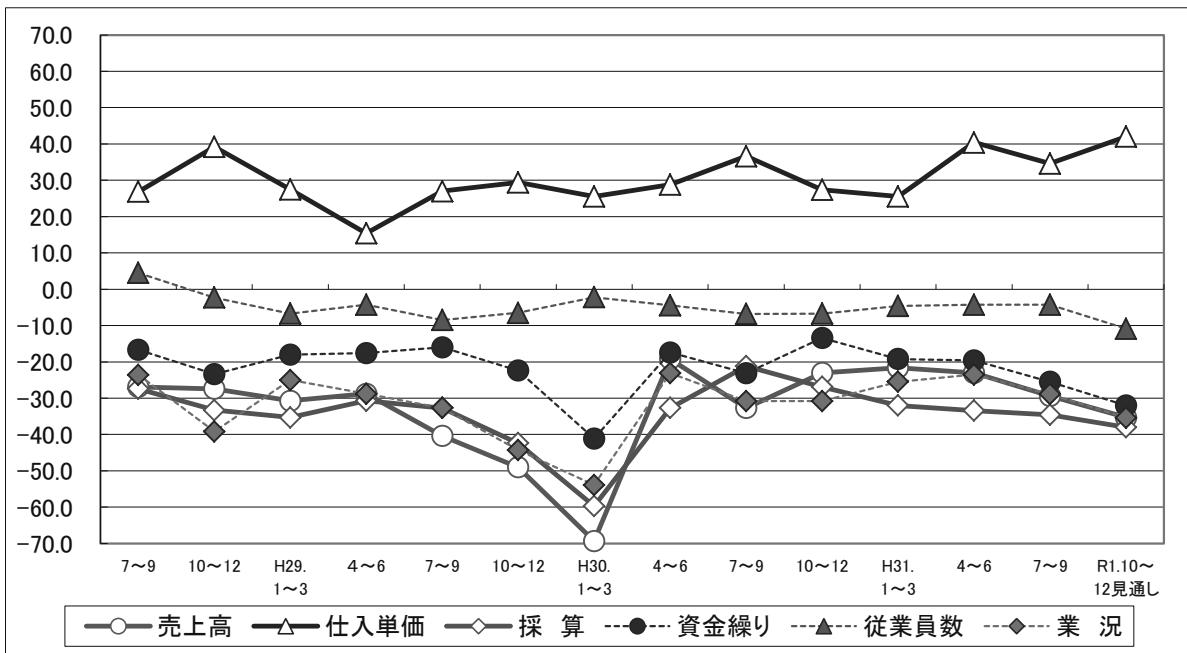
一方、新規設備投資の状況については、本期計画の10.2%に対し実施は3.9%となり、低調な推移となった。先行き（R元年10～12月期）についても、何らかの投資を計画する企業ウエイトが3.9%に止まり、引き続き投資マインドは低い。

最後に、経営上の問題点については、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト19.6%、1位～3位までに挙げた企業39.2%となった。そのほか、個別の見解として、「人手不足しており、人件費が上がり採算悪化している」、「仕入単価が上昇しているので販売価格を上げるしかないが、その影響で客数が減少している」など、悲観的な声が多く聞かれた。

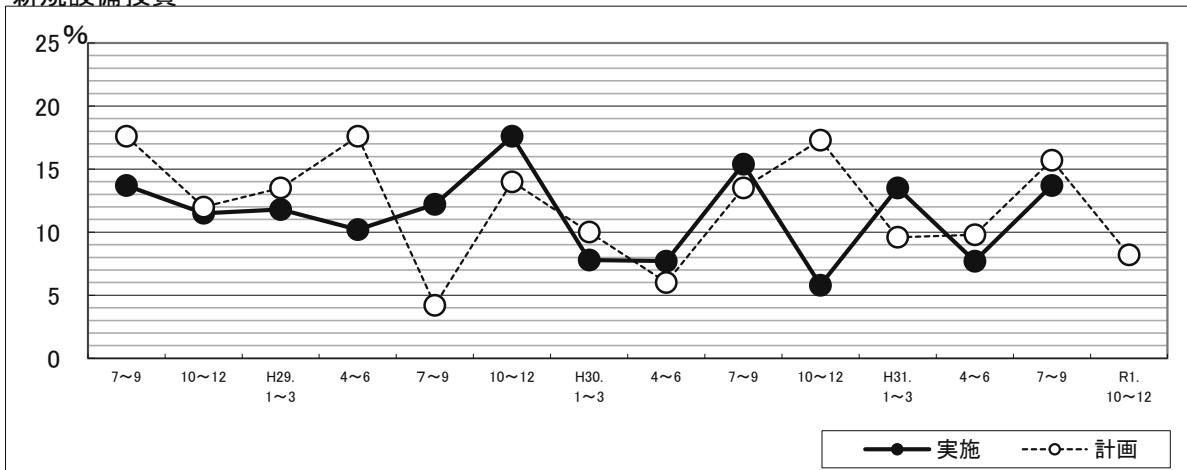
サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

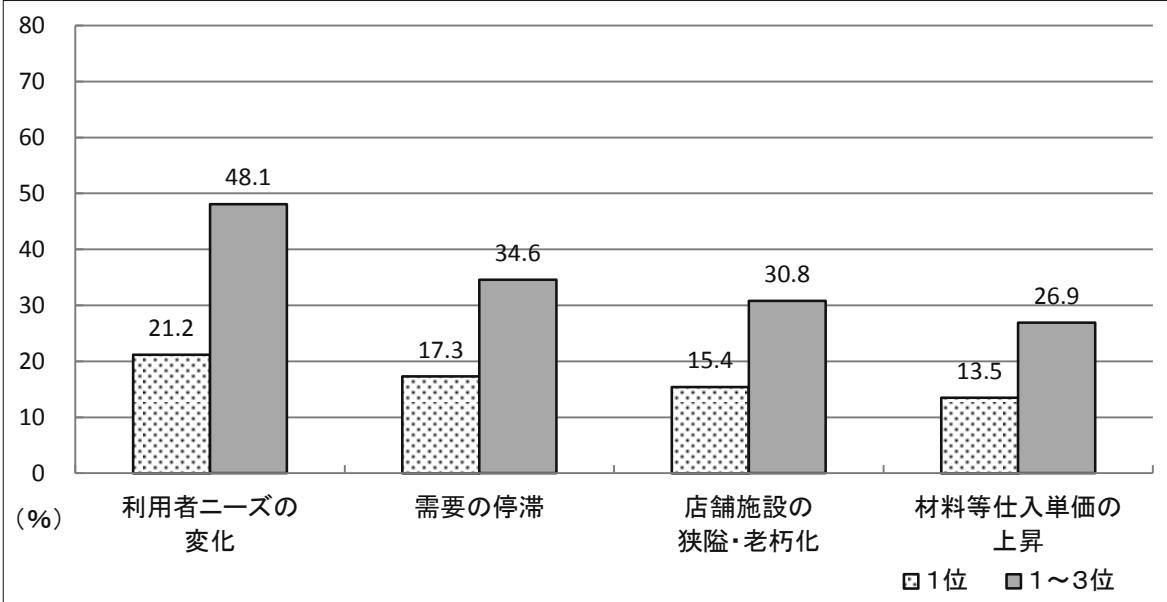
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
7~9	▲ 26.9	26.9	▲ 27.4	▲ 16.7	4.5	▲ 23.6
10~12	▲ 27.4	39.2	▲ 33.3	▲ 23.4	▲ 2.3	▲ 39.2
H29.1~3	▲ 30.7	27.5	▲ 35.3	▲ 18.0	▲ 6.7	▲ 25.0
4~6	▲ 28.8	15.4	▲ 30.7	▲ 17.6	▲ 4.3	▲ 28.8
7~9	▲ 40.4	27.0	▲ 32.7	▲ 16.0	▲ 8.5	▲ 32.7
10~12	▲ 49.0	29.4	▲ 42.4	▲ 22.4	▲ 6.5	▲ 44.3
H30.1~3	▲ 69.3	25.5	▲ 59.7	▲ 41.1	▲ 2.2	▲ 53.9
4~6	▲ 19.2	28.8	▲ 32.7	▲ 17.4	▲ 4.4	▲ 23.1
7~9	▲ 32.7	36.6	▲ 21.2	▲ 23.1	▲ 6.8	▲ 30.8
10~12	▲ 23.0	27.4	▲ 26.9	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 30.8
H31.1~3	▲ 21.6	25.5	▲ 32.0	▲ 19.2	▲ 4.6	▲ 25.5
4~6	▲ 23.0	40.4	▲ 33.4	▲ 19.6	▲ 4.3	▲ 23.5
7~9	▲ 29.4	34.6	▲ 34.6	▲ 25.5	▲ 4.3	▲ 28.9
R1.10~12見通し	▲ 35.3	42.0	▲ 38.0	▲ 32.0	▲ 10.9	▲ 35.4



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・冷夏となり夏場の売上は前期と比べて落ちている。
- ・この数年間、とにかく安ければいいというお客様が増えており、今年もその傾向は強い。

サービス業の景況

総務省が毎月実施する「サービス産業動向調査」によると、全国におけるR元年7月の売上高は31.8兆円で、前年同月に比べ1.8%増となり3カ月連続の増加であった。増加に寄与した主な産業をみると、情報サービスなどを含む「情報通信業」が前年同月に比べ4.8%の増加で4カ月連続の増加。道路貨物運送などを含む「運送業、郵便業」が同2.9%の増加で10カ月連続の増加。医療などを含む「医療・福祉」が同2.6%の増加で3カ月ぶりの増加となっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、福井県の場合、DI値6項目中4項目で悪化、1項目が横這い、改善した項目は1項目にとどまっている。ちなみに項目別では、売上高が前期▲23.0→今期▲29.4、仕入単価(逆指標)が前期40.4→今期34.6、採算が前期▲33.4→今期▲34.6、資金繰りが前期▲19.6→今期▲25.5、従業員数が前期▲4.3→今期▲4.3、業況が前期▲23.5→今期▲28.9となっている。引き続き、福井県のサービス業は、総じて厳しい環境にあることがうかがえる。また、先行き(R元年10-12月期)については、さらに厳しさが増し6項目全てで悪化予測となっている。

一方、新規設備投資については、計画15.7%に対し実施が13.7%と、やや低調となった。ただ、先行き(R元年10-12月期)についても、何らかの投資を考える企業ウエイトが8.2%に止まり、低調な投資マインドが続くものと思われる。

最後に、経営上の問題点については、「利用者ニーズの変化」(1位に挙げた企業ウエイト21.2%、1位~3位までに挙げた企業48.1%)へ指摘が最も多い。また、個別の見解としては、「冷夏となり夏場の売上は前期と比べて落ちている」、「この数年間、とにかく安ければいいというお客様が増えており、今年もその傾向は強い」等、悲観的な声が聞かれた。

全国・福井景気動向 令和元年7月～9月（対前年同期比：DI値）

D I 値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～-100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別／項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
全国	全体					
	DI値	▲ 21.4	35.0	▲ 22.4	▲ 4.4	▲ 19.7
	製造業					
	DI値	▲ 19.8	42.6	▲ 21.2	▲ 13.8	▲ 19.1
	建設業					
	DI値	1.0	43.4	▲ 9.1	0.4	▲ 4.9
	小売業					
	DI値	▲ 35.4	25.2	▲ 32.0	▲ 22.7	▲ 4.0
	サービス業					
	DI値	▲ 19.6	34.9	▲ 21.4	▲ 14.3	▲ 4.1
福井	全体					
	DI値	▲ 20.2	29.2	▲ 20.9	▲ 17.9	▲ 4.1
	製造業					
	DI値	▲ 21.1	38.9	▲ 10.8	▲ 10.8	▲ 11.4
	建設業					
	DI値	16.7	25.0	▲ 8.3	▲ 8.3	0.0
	小売業					
	DI値	▲ 25.5	15.7	▲ 25.5	▲ 23.5	0.0
	サービス業					
	DI値	▲ 25.5	38.0	▲ 29.4	▲ 22.0	▲ 4.5

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。